

connect

つながろう・つなげよう



令和6年(2024年)

5月24日(金)発行
〒080-2475

帯広市西25条南2丁目9番地1

TEL 0155 (37) 2028

FAX 0155 (37) 3768

学校ホームページ <http://www.obihiro-sb.hokkaido-c.ed.jp>

羅臼町・別海町・中標津町・標津町・釧路市と帯広盲学校との連携

羅臼町でのミニ学習会には町内の教職員、保健師・発達支援センター職員の皆様に参集いただきました。別海町では屈折検査にかかわる事例検討会、標津町では屈折検査の学習会とどの町でもその熱心さに圧倒されました。また釧路市・中標津町では新たに2つの機関と連携することができました。(文責 土屋)



↑ 羅臼町での教材紹介と盲学校の教育についての研修会に各機関から20名以上の方に参加いただきました



↑ 羅臼町での屈折検査



↑ 別海町でのケース会議に参加いただいた臨床心理士・保健師の職員の皆様

連携後のアンケート欄から

【釧路市障がい者基幹相談支援センター】

- ・説明を頂く前は、盲学校＝目が見えない人の通う学校、全盲の方が多くいるイメージでした。目の見えにくい方の相談機能があることは、基幹相談としても繋ぐことができる社会資源がひとつ増えた事になりとても感謝しています。釧路市内の学校には、見えにくさを持った児童がたくさんいると思います。おそらく眼鏡使用や席を前方にするといった対応だけと予想しています。見えにくさがあることで学習にも影響が出るということも理解をしたので、早めの相談や支援が改善につながるということを教育機関や福祉事業所などにも情報提供したいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

【中標津町児童デイサービスセンター】

- ・今回様々なお話を伺う中で、日頃当センターでお受けしているような相談内容とも多く関連するところがあり、帯広盲学校さんをとても身近な相談機関の一つとして活用できるのではないかと感じました。今回の話を伺い、乳幼児期こそ盲学校さんとの連携の重要性が高いのではないかと感じました。乳幼児期であれば、視覚に課題を抱えた特定のケースへの支援連携だけではなく、もっと幅広く、お子さんの見え方に心配や気になるご家庭を対象として個別相談会や育児セミナーのような形で理解や家庭支援を拡充していけるようになるのではないかと感じました。

連携後のアンケート欄から

【標津町児童発達支援事業所くれよんハウス】

- ・標津町にも屈折検査が今年度から導入されました。これまで3歳児検診時の絵指標検査について正直正確さがあるのか保護者として疑問に感じていました。その後特に見えにくさに気づいてあげることができなければ就学前まで検査をすることがないということを知り改めて知ったので、SVSの導入により早期に発見し治療を進められることは本当にありがたいと感じています。

【別海町民保健センター】

- ・一人一人の屈折検査の結果について、どう考えるか対応方法も含めて、資料を使いながらとてもわかりやすく説明していただきました。また家庭や地域でも視覚認知の力を育てるためにできること、気をつけることを教えていただいたので、心配な子がいた場合には、先生のお話を聞いてもらいたいと思いました。そのような子がいた場合には、相談をすすめたいと思います。
- ・盲学校と連携すべきケースについてこれまで理解できていなかったのですが、事例を通してどのケースが必要か、眼鏡をして矯正視力が0.3以下の場合や、視覚認知に課題がある場合にフォローが必要になると理解し、その際に連携させていただきたいと思いました。
- ・視覚認知面の実態把握についてフロスティック視知覚発達検査やWAVES検査があり、その後のフォローアップとしてドリルトレーニング等の方法があるということを知り、もっと早くそのようなことを知っていたら。。。と思いました。今後健診でいろいろなお子さんを見る中で注意して見ていき、必要時、フロスティックドリルなどを盲学校と連携して薦めるなどしていきたいと思いました。
- ・SVSで異常が出たケースを振り返り、結果からどのような見えにくさが予想されるのか、どのようなフォローが必要なのかを考える機会になりました。SVSは弱視を発見する、または弱視を予防することが目的となることを再確認した。

【羅臼町での帯広盲学校の教育と教材紹介ミニ学習会について】

- ・盲学校について理解することができました。特に学習指導や教育相談で使用している教材・教具の実物を手に取ることができ、特別支援学級に在籍している生徒さんや通常学級に在籍している生徒さんにも有効な手立てだと感じることができました。市販されている教材も紹介いただきましたがカラーマスノートなど使用したいと思います。（知床未来中学校）
- ・子どもの困り感がある時に目の見え方に着目する視点があるのだとわかりました。自分がやってこなかった実践やドリルなどの紹介がイメージを持ちやすく、すぐに勤務校でもチャレンジできると思いました。視覚支援が必要な子が少しでも困り感が小さくなるように、見え方への着目を忘れずに行っていきます。（羅臼町春松小学校）
- ・おたよりを毎回読ませてもらって教材についてもメールで連絡して回答を頂けたりとありがたく思っております。盲学校で使用している視知覚の教材が、支援センターで指導している子たちにも使えそうで、今回の盲学校の教材についてのミニ学習会をお願いしました。点むすびや線模写などの教材も含めてこれから使っていきたいと思います。これからも連携できたらと思います。たくさん教材を見せていただきありがとうございました。（子ども発達支援センター）
- ・盲学校のイメージ→全盲の人が通う学校とイメージされる方が、一般の方だと多いと思います。でも今日の盲学校の校長先生の説明を聞いて、そのような人だけではなく、弱視の方も通う学校なのだと認識を新たにしました。その上で、就学前等に視覚で配慮が必要な子が現れた場合に保護者に向けた丁寧な情報提供（盲学校に在籍する児童生徒さんの状況、教育内容、支援の方法など）が必要だと思います。（羅臼町役場保健福祉課）
- ・今日紹介いただいた教材の中で安価なものもありました。枠からはみ出たり字が整わない子にも使わせてみようと思いました。通常学級の子でも活用できるとも思いました。また今回の研修に学校の先生がたくさん来てくれたので関心が高いと思われました。授業する中で困っていたり悩むこともあるのかと思うとこのような学習の場がまた行えるとよいなと思いました。学校現場では実際に見方や学習につまづく子ども達と関わる機会が多くあるのではないかと思います。このような学習の機会が学校や教育委員会等との連携強化につながると感じました。（羅臼町役場保健福祉課）
- ・短い時間の中でも、教材についての説明がとてもわかりやすく、こんなものもあるんだーと、とても勉強になりました。もしまたこういった機会がありましたら見えにくさを感じている幼児（子ども）の発見の仕方についてのお話しや、見えにくさを感じている幼児への具体的な配慮の仕方などのお話を聞かせていただきたいと思います。お忙しい中、こういった機会を設けてくださりありがとうございました。（羅臼幼稚園）